

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 新設組織の概要	… p.2
① 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	… p.2
② 新設組織の特色	… p.2
(2) 人材需要の社会的な動向等	… p.3
① 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	… p.3
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	… p.4
③ 新設組織の主な学生募集地域	… p.5
④ 既設組織の定員充足の状況	… p.6
(3) 学生確保の見通し	… p.7
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	… p.7
ア 既設組織における取組とその目標	… p.7
イ 新設組織における取組とその目標	… p.8
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数	… p.10
② 競合校の状況分析（立地条件養成人材教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	… p.11
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	… p.11
イ 競合校の入学志願動向等	… p.12
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	… p.13
エ 学生納付金等の金額設定の理由	… p.13
③ 先行事例分析	… p.13
④ 学生確保に関するアンケート調査	… p.13
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	… p.16
(4) 新設組織の定員設定の理由	… p.17

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

名称	入学定員	収容定員	所在地
美術研究科統合デザイン専攻	8	16	東京都世田谷区上野毛 3丁目15-34

② 新設組織の特色

新設される統合デザイン専攻は、デザインを通じて社会の複雑な課題に対応できる高度なデザイン人材を育成することを目的としている。従来のデザイン教育が専門領域ごとに分かれ、技術や表現の習得に重点を置いていたのに対し、本専攻では横断的かつ統合的な視点を持ち、多様な分野と協働しながら社会にインパクトを与えるデザイナーを養成することに主眼を置く。統合デザインの教育は、グラフィック、プロダクト、インターフェースといった、これまでの領域の区分を取り払い、デザインの諸領域を横断的に学ぶための場であり、デザインという美学をベースとし、調和のとれた社会を築く人材の育成を目指すものである。

求める人材像としては、俯瞰的な視点を持ち、デザインを通じて新しい価値を創出できる人物である。ビジュアル表現の技術にとどまらず、社会や企業、行政と連携しながら、デザインの力で問題解決を図る能力が求められる。そのため、統合デザイン専攻では、全体像を描き出す力と、それを構成する個々の部分を見極め、揃え、整える力を身につけることを重視している。

学位は修士（芸術）として授与される。本専攻では、2年間のカリキュラムの中で、統合デザイン研究、統合デザイン演習、統合デザイン実習などの実践的な科目を中心に据え、学生が複数のプロジェクトに参加しながらデザインの実務能力を高めることを目指す。特に、産学官連携による高度な共同研究プロジェクトを積極的に取り入れ、社会のリアルな課題を解決するデザインの実装を経験できる体制を整えている。

本専攻の特色として、欧米の大学院教育に見られる実践的な演習を導入し、在学中からプロフェッショナルなデザイン実務の経験を積めることが挙げられる。これにより、学生は単なる理論的な学習に留まらず、実際のプロジェクトを通じて、複雑な課題に対する指導教員の実践的な判断を間近で経験することで、デザインの本質や社会的な役割について深く理解し、卒業後に実践力を発揮し活躍できる人材を育成する。

統合デザイン専攻の新設に伴い、既存のデザイン専攻の入学定員を8名減らし、その分を統合デザイン専攻の定員として設定する。これにより、大学全体の大学院入学定員および収容定員に変更は生じない。

デザイン専攻は、各専門領域（グラフィック、プロダクト、建築・環境など）ごと

に深い専門性を育成するカリキュラムを提供している。一方、統合デザイン専攻は、領域を横断し、社会の複雑な課題に対処するデザイン人材の育成を目的とし、学際的・実践的な学びを強化する。特に、指導教員主導型演習や、多面的・多層的批評を取り入れた実習を通じ、社会実装を重視した教育を展開する。これにより、大学院教育の幅が広がり、デザインの専門性を追求する学生と、統合的な視点で社会課題に挑む学生の双方に適した学びの場を提供できるようになる。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

私たちが対峙する世界は、政治経済、テクノロジー、社会課題等が複雑に絡み合い、「解」を導き出すことが、一層、困難になっている。単独の専門領域の知識・技術による課題解決では複雑な世界への「解」となり得ず、複数の専門領域から理解されたアプローチで調整する課題解決が、その「解」たり得るものである。

こうした多様な専門領域の重要な構成要素の一つとして、人々の生活の豊かさや美しさを創り出すデザインの領域が、他の領域と連携し、課題解決に寄与していくためには、デザインの知識や技術を主軸としつつ、横断的かつ統合的な視点からの提案力、多様な分野との協働を通じて「解」を調整する実践力が求められるものであり、本専攻が養成する統合的なデザイン人材像に合うものである。

現代社会において、デザインの役割が視覚的表現の枠にとどまらず、ビジネスやテクノロジーと結びつきながら、社会課題の解決や新たな価値創造を担うものへと拡大していることは、経済産業省の「高度デザイン人材育成ガイドライン」に示されている。このガイドラインによれば、(1)テクノロジーの変化(DX化)、(2)ビジネスの変化(GDLからSDLへ)、(3)社会の変化(グローバル・VUCAの時代)が、デザインおよびデザイン人材の需要の高まりを生んでいるとしている。

(参照 URL :

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/kodo_design/pdf/20190329_01.pdf

経済産業省「高度デザイン人材育成ガイドライン（概要版）」）

こうした社会的動向を受け、企業や行政においてデザインの活用が不可欠となり、デザインの知識や技術を主軸としつつ、多様な領域と連携し、課題設定や問題解決に貢献できる高度デザイン人材が求められている。

「デザイン経営」「デザイン思考」といったキーワードが語られ、経営企画、コンサルティング、社会課題の解決など、従来のデザイナーの枠を超えたキャリアの広がりや人材需要の高まりが、日本に留まらず、世界共通の潮流であることは言を俟たない。

上記ガイドラインにおいても「デザインの活用による組織変革」の事例として、IBM

社におけるデザイナー採用強化(デザイナー1000 人雇用計画)やデザイン部門立ち上げによる製品の売り上げ増加例、米国金融機関 Capital One 社による米国デザインファーム Adaptive Path 社の買収例などが、「デザイン」の変化の潮流として紹介されている。

実際に、統合デザイン学科では、従来の美術大学の卒業後の進路とは異なる総合職の領域、企画の領域への就職も顕著になり始めている。

(参照 URL : [https://integrated.jp/about/](https://integrated.jp/about/CAREERS) CAREERS [就職先(50 音)])

高度デザイン人材の需要は著しいものがあるが、必ずしも供給側(大学)の教育が十分であると本学では考えていない。

デザイナーは常に臨機応変にそれぞれの事象に応じたデザインアプローチを見出しながら、統合された関係性のデザインを美しく導き出す。そこで重要となる二つの力がある。一つは全体像を描く力、もう一つは全体を構成する個々の部分を見極め、揃え、整える力である。全体像とはそれぞれの事象が進むべき美しく統合された世界の姿であり、その姿、ビジョンを導き出す力が求められている。そして、そのビジョンを具現化、具体化するための必要な部分を割り出す力、見極める力、揃える力、磨く力が同時に求められている。

高度デザイン人材の需要の高まりにより、従来の美術大学ではない、いわゆる一般大学においても、これら人材の養成を掲げる大学が増えている。しかしながら、この二つの力は、人々の日々の生活や環境を観察し、その豊かさや美しさを創り出すデザインの領域において表現力を磨いて来た美術大学が圧倒的に力を有する分野である。

更に「基本計画書」に述べる「実践」「多角的・多層的批評」のカリキュラムを通し、統合デザイン専攻では、こうした社会の変化に対応し、高度デザイン人材の全国的な需要に応えるだけでなく、新たな高度職業人のモデルを提示し人材需要を創出することで、地域や社会における課題解決に貢献することを目指すものである。なお、「高度デザイン人材育成ガイドライン」においては、ビジネスシーンにおける人材需要について語られているものである。政治経済、テクノロジー、社会課題等が複雑に絡み合う中で「解」を求められる現代においては、ビジネスシーンだけでなく、社会に横たわる諸課題を、行政、社会起業家等と連携し解決する人材需要が求められる。本専攻は、デザインの知識や技術を基軸としつつ、こうした多様な領域とも連携し、人々の生活や環境の豊かさや美しさを創り出していく、デザイナーの新たな役割への需要を問いかけるものでもある。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

日本の18歳人口は、2025年の約104万人から2035年には約97万人へと減少すると予測されている。全国的に少子化の影響が続く中、特に地方では減少率が高く、大学へ

の進学者数にも影響を及ぼすことが懸念されている。一方で、社会人の大学院進学者数は全体の約10～11%を維持しており、近年のリカレント教育の推進によって、今後とも一定の需要が見込まれる。本学大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン領域における志願者数は、2023年度41名、2024年度88名、2025年度79名と安定している。また、留学生の志願者数は2023年度の38名から2024年度には78名、2025年度には63名と増減しつつも高い水準を維持しており、特にデザイン分野への関心が高い留学生が増えている。

これらのデータを踏まえると、18歳人口の減少は新設組織の定員充足に影響を与える可能性があるが、(1)入学定員が8名と少数であること、(2)社会人や外国人留学生の受け入れを強化することで定員充足は可能である。特に、統合デザイン専攻は、社会人がスキルアップやキャリアチェンジのために学ぶ場としても適しており、欧米の大学院のように実務経験を持つデザイナーが再び学び直す場としての機能を持つことが期待される（「学生確保に関するアンケート調査」参照）。デザイン分野はグローバルな需要が高いため、外国人留学生の受け入れを積極的に進めることで、定員充足の安定化が図れる。

加えて、社会のデジタル化や産業構造の変化により、デザインを活用した問題解決やサービス開発の需要が高まっており、統合的なデザイン人材の育成が求められている。こうした背景を考慮すると、新設される統合デザイン専攻は、全国のおよび国際的な人材ニーズに対応できる教育環境を整えることで、安定的に定員を確保できると考えられる。

③ 新設組織の主な学生募集地域

(1)多摩美術大学はこれまで全国各地から学生を受け入れており、特に首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）を中心に、西日本（関西・中部）や東北からの入学者も一定数存在している。統合デザイン専攻では、美術・デザイン系学科を持つ全国の大学からの進学者を想定している。

統合デザイン学科の学部3年生に対するアンケート調査の単純集計結果によると（※実施概要は「学生確保に関するアンケート調査」にて後述）、大学院進学を希望している者は回答者49名中14名（28.5%）、そのうち統合デザイン専攻が開設された場合、第1志望で受験すると回答した者は6名は（42.8%）、第2志望まで加えると10名（71.4%）であり、統合デザイン学科の学部生からの進学が一定数見込まれる。

また、大学院レベルの教育であることから、学部時代に美術・デザインを専攻していないものの、建築、工学など、デザイン分野に関心を持つ他分野出身者も対象とする。そのため、単に美術大学の学部卒業者だけでなく、全国の総合大学からの進学者も見込まれる。

(2)統合デザイン専攻は、グローバルな視点を持つデザイン人材の育成を目的として

おり、外国人留学生の受け入れも視野に入れている。特に、アジア圏（中国・韓国・台湾）や欧米（フランス・ドイツ・アメリカ）など、デザイン・アート教育の水準が高い国々からの進学者も見込まれる。

これらの国では、美術・デザイン的高等教育において日本と共通する関心があり、特に日本のデザイン思考や文化に対する関心が高いことが背景にある。また、多摩美術大学ではこれまでに多くの留学生を受け入れており、2024年5月時点での大学全体の在学学生4,758人中、留学生は576人（全体の約12.1%）を占めている。近年では留学生の受験者数も年々増加傾向にあり、既存の国際交流プログラムや協定校を活かした戦略的な募集活動が可能である。

(3)社会人学生の募集も重要な対象となる。社会人向けアンケート調査の単純集計結果によると（※実施概要は「学生確保に関するアンケート調査」にて後述）、社会人10年目以内のデザイン職従事者104名のうち、通学型大学院進学を考えていると回答した者は16名（15.3%）、そのうち「総合デザイン・統合デザイン」を大学院で専攻したいと回答した者は9名（56.2%）であった。このことから、社会人の学び直しのニーズが一定数存在し、特にデザイン業界でキャリアアップを目指す人材に向けたプログラムが求められている。

この社会人に向けたアンケートでは学び直しのニーズが一定数存在することが確認できたが、さらに進学希望者を見込む方策として、「多摩美術大学自体の詳細（学部・学科名、教員等）を知ってもらうこと」が有効であることも確認できた。

実際に、参考値として、本学の社会人向け教育プログラム（TCL, Tama Art University Creative Leadership Program）の過去の受講者ならびに現在の受講者向けに、社会人向けアンケートと同じ趣旨の調査を行ったところ（回答者135名）、統合デザイン専攻が開設された場合、第1志望で受験すると回答した者は47名（34.8%）、第2志望まで加えると59名（43.7%）と高い受験意向が示され、「本学の教育内容への理解」が訴求力を高めることが確認できた。

以上より統合デザイン専攻の進学者は十分に見込めるが、認知をあげることで、より多くの進学希望者を増やすことができると見込んでいる（広報計画は後述）。

首都圏に限らず、大阪・名古屋などの都市部、さらにはオンラインを活用した全国募集の可能性も視野に入れている。

【添付データ】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）

④ 既設組織の定員充足の状況

統合デザイン専攻（修士課程）の基礎となる統合デザイン学科は、2014年の設立以降、定員充足率100%を超える水準で安定して推移しており、2024年度においても入

学定員120名に対して132名が入学し、定員充足率は110%となっている。この安定した定員充足は、独自の横断的・統合的カリキュラムを通じて多様な表現力や思考力を育成してきた本学科の教育内容に対する、社会的な信頼と期待の表れであると考えている。

近年、統合デザイン学科の卒業生は、従来のデザイン関連職にとどまらず、総合職や企画職など幅広い領域へと進路を拡げており、実社会におけるデザイン人材への需要の多様化にも対応している。また、在学生を対象としたアンケート調査においても、統合デザイン学科での学びをさらに発展させ、研究と実装の両面において実社会に貢献する力を身につけたいという希望が多く見られており、修士課程への進学意向も確認されている。

こうした状況を踏まえ、統合デザイン学科は今後も安定した入学者の確保が見込まれるとともに、さらに深化した統合デザイン教育へのニーズが高まっていくことが予想される。そのため、修士課程の設置は、既存学部教育の成果を発展的に継承し、社会の要請に応える高度デザイン人材の育成を実現する上で、極めて有効であると考え

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集のためのPR活動の一環として、大学公式ホームページおよび受験生サイトを令和6（2024）年4月に全面リニューアルし、ユーザビリティの向上ならびに受験生の興味・関心に沿ったコンテンツの拡充を図った。同時に、近年の志願者年齢層の利活用が目覚ましいSNSにも注目のうえ積極的な情報発信に努めている。SNSサービス提供各社による公式な調査・発表はないものの、ある一般調査によると、多摩美術大学の公式X（旧Twitter）アカウントのフォロワー数は2025年2月1日時点で日本国内の国立・公立・私立すべての大学の中で第19位、私立大学では第13位となっている^{※1}。また、新型コロナウイルス感染症の影響下にあってもオンラインオープンキャンパスや人数制限を設けたオープンキャンパスを実施するなど、社会事情を適切に考慮しながら毎年オープンキャンパスを複数回開催し、大学での学びを深く理解する場や教職員と直接相談できる機会の提供に努めている。

このように、デジタル（ホームページ、SNS、動画等）と対面（オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学相談会等）、それぞれの特徴や利点を生かした広報活動を幅広く展開することにより、少子化のなかにあっても安定したオープンキャンパス来場者、資料請求者、そして志願者に繋げている。

【添付データ】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙 3）

オープンキャンパスにおける過去 5 年の来場者数

年度	令和元 年度	令和 2 年度※2	令和 3 年度※3	令和 4 年度※3	令和 5 年度
来場者数 (名)	11,364	1,478	4,372	8,297	14,324

資料請求者（郵送）

年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
来場者数 (名)	15,312	16,856	19,753	18,225	18,237

※1 <https://daigaku-syokuin.hatenablog.com/entry/2022/12/26/224032>

（参照 2025-2-1）

※2 令和 2 年度のオープンキャンパスは、オンラインのみで実施。

※3 令和 3、4 年度のオープンキャンパスは、人数制限（来場者上限有り）を設けた
対面オープンキャンパスとオンラインオープンキャンパスを組み合わせで実施。

研究科については、入学後のミスマッチを防止する目的で、他大学出身の希望者向けに、自身の研究計画の内容と教員の研究テーマとが適合するかを確認するための面談の機会を設けている。面談はオンラインツールを採用することで志願者の物理的・経済的負担を考慮して行われており、本取り組みにより志願者の問い合わせや面談申込件数の増加といった効果が表れている。

イ 新設組織における取組とその目標

新設組織は、美術学部統合デザイン学科ならびにデザイン専攻統合デザイン領域との関わりが深いため、これまで行ってきた既設組織での取り組みを継続して行っていく。加えて、新設組織の認知を広げるための情報発信も重要となることも踏まえ、以下のような PR 活動を継続的にしていく。

①資料請求

本届出提出後の令和 7（2025）年 4 月下旬に刊行する大学案内から新設組織の開設を予告する。早期に告知を開始することで資料請求者への認知向上に努め、新設組織の興味・関心の醸成に繋げる。

②特設ホームページの作成

令和 7（2025）年 5～6 月に、新設組織の特設ホームページを設置する予定である。ホームページ内には養成する人材等の基本情報のほか、教育課程（カリキュラム等）の紹介動画、入試問題のサンプル、今後のキャリア像、教員紹介など、志願者のニーズに応じたコンテンツを適宜拡充し、丁寧な情報提供に努めることで統合デザイン専攻の教育理解を高め、訴求力の向上に繋げる。

③リーフレットの作成

令和 7（2025）年 5～6 月に、新設組織のリーフレットを作成予定である。リーフレットでは、設置の趣旨・概要に加え、養成する人材等の基本情報やカリキュラムなどを提示し、新設組織の認知向上や興味・関心の醸成に繋げる。なお、リーフレットは、②のホームページからもダウンロードできるようにする。

④オープンキャンパス

毎年 6 月にオンラインオープンキャンパス、そして 7 月（2 日間）と 9 月に対面型のオープンキャンパスを八王子キャンパスにて開催予定である。対面型オープンキャンパスでは③のリーフレットを配布し、新設組織の認知向上に努める。また、開催日・開催方法を問わずすべてのオープンキャンパスで教職員と直接相談できる相談コーナーを設置し、志願者の不安や疑問の解消に努める。

⑤プレスリリース

令和 7（2025）年 6～7 月に、プレスリリースサービス「PR TIMES」を用いて社会全体向けの発信を行う予定である。美術・デザイン業界に加え、教育やビジネスといった各種メディアに転載されることを目的とし、幅広い情報拡散と新設組織の認知向上に繋げる。

⑥学外者向け説明会

令和 7（2025）年 7～8 月に、上野毛キャンパスにて美術学部統合デザイン学科と合同で「大学・大学院説明会」を開催する予定である。来場者に実際の教育環境を見てもらうとともに、教員との対話や模擬授業などを通じて統合デザイン学科や新設組織で学べることを体験してもらい、志願意欲の向上に繋げる。なお、学外者向け説明会は⑤のプレスリリースにも掲載し、イベントそのものの認知を広めるとともに来場者の最大化に努める。

⑦学内者（統合デザイン学科学部生）向け説明会

令和 7（2025）年の前期（4 月）・後期（9 月）、それぞれのオリエンテーションにおいて、統合デザイン学科学部生に向けた統合デザイン専攻の「大学院説明会」を開催する予定である。入学時から情報提供を行うことで、統合デザイン専攻の認知と志願意欲の向上に繋げる。

⑧大学公式ホームページ・SNS

前述の PR 活動の遂行において、適宜大学公式ホームページや大学公式 SNS での情報発信をセットで行うことに加え、学内の多種多様な SNS でのリポスト

やシェア投稿の促進を行い、幅広い情報拡散と新設組織の認知向上に繋げる。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

①資料請求

令和 6 年度入試の学生募集に関する施策別出願者の集計によると、大学ホームページからの資料請求者の出願率は 26.0%、入学率は 3.9%である。全資料請求者 18,237 名のうちの具体的な大学院専攻・領域別の資料請求者は算出できないが、定員比（8 名、0.69%）で統合デザイン専攻の資料請求予定者を試算すると約 125 名と推定され、その結果出願者は約 32 名、見込み入学者は約 4.8 名となる。

②特設ホームページの作成

ホームページは興味喚起を通じて資料請求やオープンキャンパスへの来場を促進する目的が大きいことから、①または④に含むものとする。

③リーフレットの作成

リーフレットは興味喚起を通じて資料請求やオープンキャンパスへの来場を促進する目的が大きいことから、①または④に含むものとする。

④オープンキャンパス

令和 6 年度の学生募集に関する施策別出願者の集計によると、オープンキャンパス来場者の出願率は 36.4%、入学率は 6.2%である。全オープンキャンパス来場者 14,324 名のうちの具体的な大学院専攻・領域別の来場者は算出できないが、定員比（8 名、0.69%）で統合デザイン専攻のオープンキャンパス来場予定者を試算すると約 98 名と推定され、その結果出願者は約 35 名、見込み入学者は約 6.0 名となる。

⑤プレスリリース

プレスリリースは興味喚起を通じて資料請求やオープンキャンパスへの来場を促進する目的が大きいことから、①または④に含むものとする。

⑥学外者向け説明会

学外者向け説明会は、その趣旨から④のオープンキャンパスと同等の効果が期待できる。説明会の来場者目標人数が 50 名であることから、出願者は約 18 名、見込み入学者は約 3.1 名となる。

⑦学内者（統合デザイン学科学部生）向け説明会

「学生確保に関するアンケート調査」の一環として実施した、学部 3 年生に向けた意向調査の結果から、見込み入学者は約 15 名となる。

⑧大学公式ホームページ・SNS

大学公式ホームページ・SNS は興味喚起を通じて資料請求やオープンキャンパスへの来場を促進する目的が大きいことから、①または④に含むものとする。

これらの取り組みによって、見込み入学者はのべ約28名、定員（8名）に対する倍率は約3.5倍と予測される。

② 競合校の状況分析（立地条件・養成人材教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコース（以下、「CLコース」と略）を競合校と想定している。

CLコースは、本学と同様、美術大学における大学院であること、35名（映像・写真コースを含む）の入学定員であること、統合デザイン専攻は世田谷区上野毛、CLコースは新宿区市谷田町と都心に位置するキャンパスであるなどの類似性がある。

また、学力層については、統合デザイン専攻では上述したとおり、学部進学者だけでなく社会人を一定程度、想定している。CLコースのアドミッションポリシーで「サービスデザインやデザインビジネス分野において、リーダーシップを発揮して新たな社会的価値や事業構想を具体化するための基礎的な能力・経験を持つ人」とされており、類似性がある。

入試時期については、統合デザイン専攻は1月を予定している。CLコースは、2025年入試では、A日程9月、B日程1月としている。既存大学院入試において、同様日であることの本学不利益も特段のものは見当たらない。

学生納付金（2025年度入学者）については、統合デザイン専攻・年間1,789,000円（入学金含む）、CLコース・年間1,778,000円（入学金含む）である。

奨学金制度については、大学独自の給付型奨学金について、修士課程での奨学金の比較を行った（専攻ごとの割り当てを採っていないため）。なお、激甚災害等の緊急対応は除いている。

本学大学院（修士）では、創立80周年記念奨学金（学部含む）30万円×30名、学業成績優秀者奨学金（学部含む）20万円×230名、特別優秀顕彰奨学金（学部含む）10万円×30名、ワークスタディ奨学金（学部含む）20万円×40名、学修奨励制度10万円×280名、特待生制度1年間学費免除×14名の予算規模である。

武蔵野美術大学大学院（修士）では、武蔵野美術大学奨学金50万円×20名、地方出身学生支援奨学金30万円×3名、私費外国人留学生奨学金（学部含む）30万円×16名の予算規模である。

学生納付金は同等、奨学金の予算規模は本学は多額の予算を割いており、経済的な進学動機付けにおいては高い優位性を有している。

就職支援においては、ともにキャリアセンターを置くなど組織上の優位性は確認できないが、統合デザイン専攻では企業や行政機関との連携を授業に取り込むことが

ら、直接的なリクルートも想定できる。

取得できる資格については、両者ともに人材養成の目的上、これを置いていない。

イ 競合校の入学志願動向等

武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコース（CLコース）の過去3年間の志願者数・合格者数・入学者数は、以下のとおりとなる。

年度	志願者数	合格者数	入学者数
2024	99	25	28
2023	114	24	25
2022	114	26	23

また、定員は造形構想研究科造形構想専攻として「35名」と定められているため、同専攻の「映像・写真コース」を含めた入学者数と定員充足率は以下のとおりとなる。

年度	入学者数	定員	定員充足率
2024	62	35	177%
2023	52	35	148%
2022	50	35	142%

以上の通り、定員充足率は100%以上で推移しており、一定の志願者数と安定した合格者数を維持していることが確認できる。

統合デザイン専攻は、学部3年生を対象とした調査でも、進学希望者の間で「実装力やビジョンを具体化する力の習得」「社会課題の発見と解決能力の獲得」などの魅力が認識されていることがわかる。加えて、統合デザイン専攻の教育カリキュラムは、実践的な外部機関との協力を前提としたプロジェクト型学習を重視しており、社会人の進学需要を十分に満たす設計になっている。

このように、統合デザイン専攻は、CLコースと類似性を有し競合しつつも、①グラフィック、プロダクト、インターフェースといった、これまでの領域の区分を取り払い統合的なデザイン人材の育成を掲げていること、②指導教員主導による高度共同研究プロジェクト等の、より実践的な教育プログラムを提供することで、CLコースに比して、新しいデザインの価値の創造と実践力の強化において優位性があり、社会人や学部卒業生の関心を集め、定員充足が可能であると考えられる。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校（武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコース）が定員を充足しているため、記載を省略する。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

学費は、本大学院は各専攻同一であるため（専攻研究領域により、私用材料等一括購入預り金は別途徴収する）、統合デザイン専攻においても同一に設定する計画である。

他の美術大学、芸術大学又はデザイン系分野を置く他大学院との比較においても妥当であると考えている。（【資料1】デザイン系分野を置く他大学院の学生納付金の状況）

③ 先行事例分析

本専攻は既設組織を廃止しての設置ではないため、本項目には該当しない。

④ 学生確保に関するアンケート調査

統合デザイン専攻における学生確保の見通しを測定するため、今後の進学意向や受験または入学見込みを測るふたつの調査を実施した。その結果から、統合デザイン専攻が主な入学見込み者とする「多摩美術大学統合デザイン学科の学生」ならびに「デザイン関連業務に従事する社会人」のどちらも、それぞれ単独でも定員 8 名を満たすことを示す結果が得られ、よって定員の安定的な充足が予測される。具体的な調査方法・結果については以下の通り。

I. 学部 3 年生向け調査

● 調査対象と選定理由

- 対象：多摩美術大学統合デザイン学科 3 年生 124 名（※調査時点。休学者を除く）
- 選定理由：同対象は 2026 年 3 月に卒業を控えており、同年 4 月に開設を予定している統合デザイン専攻への内部進学が見込めるため。

● 調査時期

- 2025 年 1 月 7 日（火）～14 日（火）

● 調査方法

- 2025 年 1 月 7 日（火）に学内で統合デザイン専攻の開設計画を紹介する説明会を開催した。終了後に、対象となる 3 年生の学生に学内ポータルサイトで Web アンケートを提示した。
- 学生からの回答は任意とし、49 名から回答があった（回答率 39.5%）。

➤ 調査時に提示した新設組織のリーフレット【資料2】

➤ 調査に用いた調査票様式【資料3】

● 調査概要

以下の条件を満たす回答者を統合デザイン専攻のターゲット層と定義して分析を行ったところ、対象者は10名（回答者全体の約20.4%）であった。

◇ 大学卒業後の進路として、「大学院進学」を希望している。

◇ 進学を希望する場合の大学等の設置者として、「私立」を希望している。

◇ 進学先で学びたい学問分野として、「総合デザイン・統合デザイン」を希望している。

ターゲット層の受験意向と入学意向をクロス集計した結果は、下表のとおりである。この結果によると、統合デザイン専攻を第一志望とする者のうち「入学する」と回答した者は5名、「志望順位が上位の志望校が不合格の場合は入学する」と回答した者を含めると6名いた。今回の調査の回答者は学年全体の約39.5%であることから、統合デザイン学科3年生の内部進学の潜在的なターゲット層は15名程度と予測され、統合デザイン専攻の定員を充足し得ると言える。なお、第二志望とする者までを含めると、「入学する」と回答した者は8名、「志望順位が上位の志望校が不合格の場合は入学する」と回答した者を含めると9名、潜在的なターゲット層の予測は22名程度である。

		入学意向			
		入学する	志望順位が上位の志望校が不合格の場合は入学する	入学しない	計
受験意向	第一志望	5	1	—	6
	第二志望	3	—	—	3
	第三志望以降	—	—	1	1
	合計	8	1	1	10

Ⅱ. 社会人向け調査

● 調査対象と選定理由

➤ 対象：以下の要件を満たす社会人104名（※調査時点）

- 一都三県（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）在住
- 社会人歴1年以上10年以下（※パート、アルバイトを除く）
- 調査時点で、デザイン関連業務に従事している（※複数の業務を保有する

場合は、メインとなる業務のもの)

- 選定理由：統合デザイン専攻が想定する潜在志願者層であるため
- 調査時期
- 2024 年 12 月 20 日（金）～22 日（日）
- 調査方法
- インターネット調査
 - 調査委託会社が保有するモニターリストから居住地、社会人歴、現在の主な業務内容から対象者を抽出し、ランダムサンプリングによりアンケート依頼を送付。一定（100 件）の回答者数を満たすまでアンケート回答を受け付ける。
- 調査委託会社と委託理由
 - 調査委託会社；株式会社マクロミル
 - 委託理由：インターネット調査の業界最大手であり、調査希望対象者（デザイン関連業務に従事する 20 代～30 代前半）の出現確率が最も高いと予想されたため。
- 調査時に提示した新設組織のリーフレット【資料 2】
- 調査に用いた調査票様式【資料 4】
- 調査概要

以下の条件を満たす回答者を統合デザイン専攻のターゲット層と定義して分析を行ったところ、対象者は 7 名（回答者全体の約 6.7%）であった。

- ☆ 今後のキャリアの展望として、「大学院（通学型）への進学」を挙げている。
- ☆ 大学院（通学型）を希望する場合の大学等の設置者として、「私立」を希望している。
- ☆ 大学院（通学型）進学先で学びたい学問分野として、「総合デザイン・統合デザイン」を希望している。

ターゲット層の受験意向と入学意向をクロス集計した結果は、下表のとおりである。この結果によると、統合デザイン専攻を第一希望とする者のうち「入学する」と回答した者は 6 名、「志望順位が上位の志望校が不合格の場合は入学する」と回答した者を含めると 1 名おり、ターゲット層の全員が高い入学意向を示した。

今回の調査は総回答者数としては必ずしも多くはないものの、「2024 年労働力調査」によると南関東地域の 25～34 歳の労働人口は 417 万人^{※1}である。また、統合デザイン専攻のターゲットと一致する広義のデザイン関連業務従事者の割合等を示す数字はないが、「令和 2 年国勢調査」によると、狭義の美術・デザイン関連職（美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者）に従事する全国の 25 歳～34 歳の雇用者の割合は 0.67%

であることから、南関東在住で美術・デザイン関連職に従事する 25 歳～34 歳人口は約 2.7 万人程度と推定でき、そのうち約 6.7%、つまり少なくとも約 180 人程度が統合デザイン専攻の統合デザイン専攻の定員を満たし得る対象者と言える。さらに、「デザイン白書 2024」では、日本国内のデザイン事業所の約 3 割が東京都にある※こと、またデザイン事業所数ならびに同従業者数も 2016 年～2021 年にかけて増加に転じている※3 こと等が述べられており、統合デザイン専攻キャンパス所在地の地理的な優位性やデザイン業界全体の拡大・発展も今後の統合デザイン専攻の定員の充足を予測するものである。

		入学意向			
		入学する	志望順位が上位の 志望校が不合格の 場合は入学する	入学しない	計
受験意向	第一志望	6	1	—	7
	第二志望	—	—	—	—
	第三志望以降	—	—	—	—
	合計	6	1	—	7

※1 2024 年労働力調査

<[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200531&tstat=000000110001&cycle=7&year=20240&month=0&tclass1=000001040276&tclass2=000001040283&tclass3=000001040285&result_back=1&cycle_facet=tclass1&tclass4val=0)

[search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200531&tstat=000000110001&cycle=7&year=20240&month=0&tclass1=000001040276&tclass2=000001040283&tclass3=000001040285&result_back=1&cycle_facet=tclass1&tclass4val=0](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200531&tstat=000000110001&cycle=7&year=20240&month=0&tclass1=000001040276&tclass2=000001040283&tclass3=000001040285&result_back=1&cycle_facet=tclass1&tclass4val=0)> (参照 2025-2-5)

※2 デザイン白書 2024 https://archive.jidp.or.jp/wpd2024/wpd2024_full_a3.pdf
(参照 2025-2-5)

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

(2)①で説明した通り、近年、社会の急速なデジタル化に伴い、企業や行政における DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が重要な課題となっている。DXは単なるデジタル技術の導入ではなく、組織構造や業務プロセスの抜本的な変革を意味しており、その中心には「ユーザー視点で価値を再設計する」というデザインの思考が求められている。

情報処理推進機構（IPA）「デジタルスキル標準（DSS）」において、DX推進に必要な

な人材類型の一つとして「デザイナー」が定義されている。ここで言う「デザイナー」とは、ビジュアルの表現力だけではなく、ユーザーの体験、サービス全体の設計、さらには企業や組織のビジョンに基づいた価値創出を担える人材を指す。言い換えれば、DXの本質に関わる「課題設定」「仮説構築」「価値設計」を担う存在として、戦略的思考と創造的実装力を兼ね備えた高度なデザイン能力が不可欠となっている。

こうした背景の中で、従来の「デザイナー」像にとどまらない、統合的なデザイン人材が強く求められている。企業の中でプロジェクトマネジメント、ブランディング、サービス設計といった領域を担うデザイン人材の役割は年々拡大しており、その育成は社会全体の変革と直結している。

統合デザイン専攻では、こうした社会的要請に応えるべく、諸課題を横断的に捉えながら、社会課題を発見・再構成し、美しく統合された解決策を導き出す人材の育成を目指している。

(4) 新設組織の定員設定の理由

統合デザイン専攻の定員については、上述したとおり、高度デザイン人材への需要が高まっている社会動向、実践的な演習や実習等を取り入れた独自かつ高度なカリキュラムの実施、競合校に対する優位性等から、届け出定員の8名以上の設定が可能である。

しかし、高度産学官共同課題を構想し、相手方企業等とのプロジェクト実施が伴うことから、多数の入学者を受け入れることは困難であることから、十二分な指導とプロジェクト完遂が可能な8名の入学定員とした。

資料目次

【別紙 1】新設組織が置かれる都道府県への入学状況	・・・P.2
【別紙 3】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	・・・P.3
【資料 1】デザイン系分野を置く他大学院の学生納付金の状況	・・・P.4
【資料 2】新設組織に関するリーフレット	・・・P.5
【資料 3】学部 3 年生調査に用いた調査票様式	・・・P.8
【資料 4】社会人調査に用いた調査票様式	・・・P.12

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	東京都	103.48%	103.46%	102.88%

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	芸術系	55.00%	54.17%	63.33%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 多摩美術大学オープンキャンパス

	R5 年度入試	R6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	8297人	12324人	①取組概要 受験希望者や本学へ関心を寄せる高校生を対象にキャンパスを開放し、既設組織の特色や授業・課題の紹介、ワークショップ、施設案内を実施。 R5年度入試対象 (R4開催)：計4回開催 (7/16. 7/17. 7/30. 9/18) R6年度入試対象 (R5開催)：計4回開催 (7/15. 7/16. 7/29. 9/24)
うち受験対象者数 (b)	4747人	5990人	
うち受験者数 (c)	1783人	2005人	
うち入学者数 (d)	691人	688人	
(受験率 c/b)	37.6%	33.5%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験率・入学率ともに高い効果が得られるため、受験情報誌やSNS広告などで更なる認知増加を図り、新設組織の受験者・入学者増につなげる。
(入学率 d/b)	14.6%	11.5%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 資料請求 (郵送)

	R5 年度入試	R6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	18225人	18237人	①取組概要 大学HPや受験情報誌等から簡単に資料請求ができ、且つ受験生の経済的負担を考慮し無料としている。大学紹介や催事の案内に加え、卒業後の進路や入試に関する冊子等も同梱し、大学を多様な切り口で紹介している。
うち受験対象者数 (b)	10986人	10399人	
うち受験者数 (c)	799人	659人	
うち入学者数 (d)	246人	195人	
(受験率 c/b)	7.3%	6.3%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 美大の潜在的志願層を含め、幅広い受験希望者と接点を持てる有用な取り組みであるため、今後も受験情報誌や大学HP内で資料請求促進を行い、新設組織の受験者・入学者増につなげる。
(入学率 d/b)	2.2%	1.9%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： キャンパス見学

	R5 年度入試	R6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	276人	201人	①取組概要 オープンキャンパスや催事開催時に来られない方向けにキャンパス見学を実施。自由に見学いただくほか、広報課職員にて相談・質問対応を行うなど、受験希望者の疑問解消と志願意向の醸成を行う。
うち受験対象者数 (b)	223人	141人	
うち受験者数 (c)	90人	54人	
うち入学者数 (d)	40人	17人	
(受験率 c/b)	40.4%	38.3%	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験率・入学率ともに高い効果が得られるため、大学公式SNSや資料などで更なる認知増加を図り、新設組織の受験者・入学者増につなげる。
(入学率 d/b)	17.9%	12.1%	

【資料1】デザイン系分野を置く他大学院の学生納付金の状況

大学等名	入学金 (入学時)	授業料	実習費	維持費	施設費	その他	合計	備考
多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程 統合デザイン専攻(令和8年度設置予定)	200,000	1,237,000	32,000	50,000	240,000	30,000	1,789,000	「その他」は校友会費
武蔵野美術大学大学院造形構想研究科修士課程 造形構想専攻 クリエイティブリーダーシップコース	150,000	1,210,000		38,000	380,000	—	1,778,000	
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程 造形芸術専攻	200,000	710,000	90,000	—	200,000	10,000	1,210,000	「その他」は校友会費
東京造形大学大学院造形研究科修士課程 造形専攻 デザイン研究領域	200,000	1,100,000	—	—	350,000	31,750	1,681,750	「その他」は校友会費30,000円 +学生災害傷害保険の掛金1,750円
大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程(前期) 芸術制作専攻	280,000	900,000	—	—	430,000	—	1,610,000	

多摩美術大学 大学院

美術研究科

統合デザイン専攻（修士課程 設置構想中）

従来の大学院とは異なる、新しいデザイン教育の為の新しい大学院「統合デザイン専攻」を設置します。

2026 年（令和 8 年）4 月開設予定 ※記載内容は構想中のものであり、今後変更になる場合があります。

■ 教育目的

デザインを通して世界を俯瞰して眺め、環境の変化に柔軟に対応し、困難な局面における次の手立てを見つけ実行していくことが出来るような感性と知性と行動力、そして、グローバルなスケールの視座と統合的なデザインの能力を備えたデザイナーが養うべき以下の 2 つの力 を修得する。

1. 全体像（ビジョン）を描く力

全体像とはそれぞれの事象が進むべき美しく統合された世界の姿であり、その姿、ビジョンを導き出す力

2. 全体を構成する個々の部分を見極め、揃え、整える力

ビジョンを具現化、具体化する為に必要な部分を割り出し、見極める力、揃える力、磨く力

■ 養成する人材像・目標とする人物像

・研究を推進する力や理論化する力に加え、直感や実装力、ビジョンを具体化する力を重視し、現実社会で即戦力となる高度なデザイン人材

・変化する世界を多面的・多層的に捉え、従来の価値観に囚われない新たな価値を創造できる人材

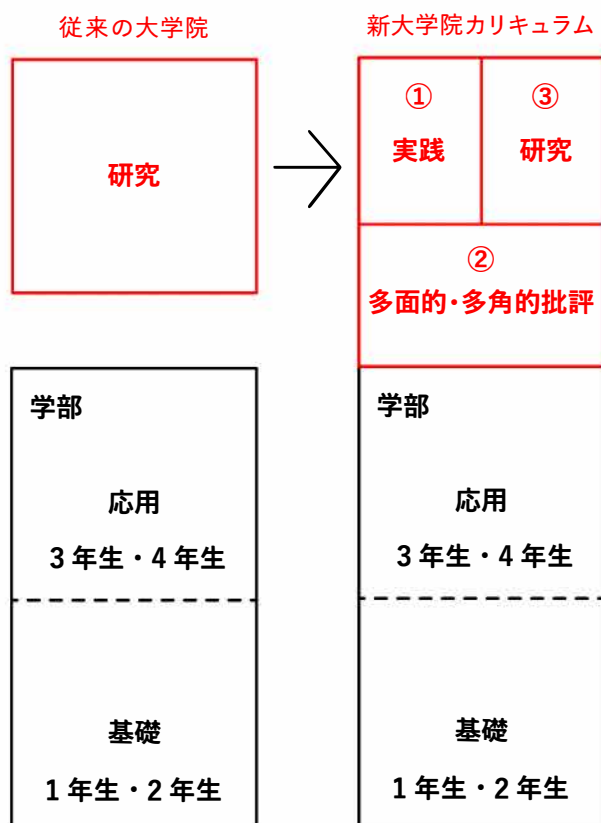
・グローバルな視座を備え、デザインという美学を基盤とした調和のとれた社会の構築に挑み、美しい生活、美しい社会の姿を牽引していく高度なデザイン人材

・幅広い分野に通底して横たわる「デザインの核心」、「気付きの力」を備えた高度なデザイン人材

・エキスキュージョンとアイデアを両方持ち合わせた人

・良くて当たり前の出来るデザイナーを目指す

新大学院「統合デザイン専攻」では新しいデザイン教育の為の新カリキュラムの実践を計画しています。



① 実践（統合デザイン演習Ⅰ・Ⅱ／4 単位 × 2）

社会との接点を強化し、外部の企業や組織などと協働しながらデザイン開発や研究に取り組み、社会に対して新しい提案を実施する。社会への実装を前提とした実践的な課題を通して、統合された美しい全体像を具体化するデザインの力を習得する。インターンシップ形式の授業により、プロフェッショナルの実践的な判断やデザインの具体化の経験を獲得する。

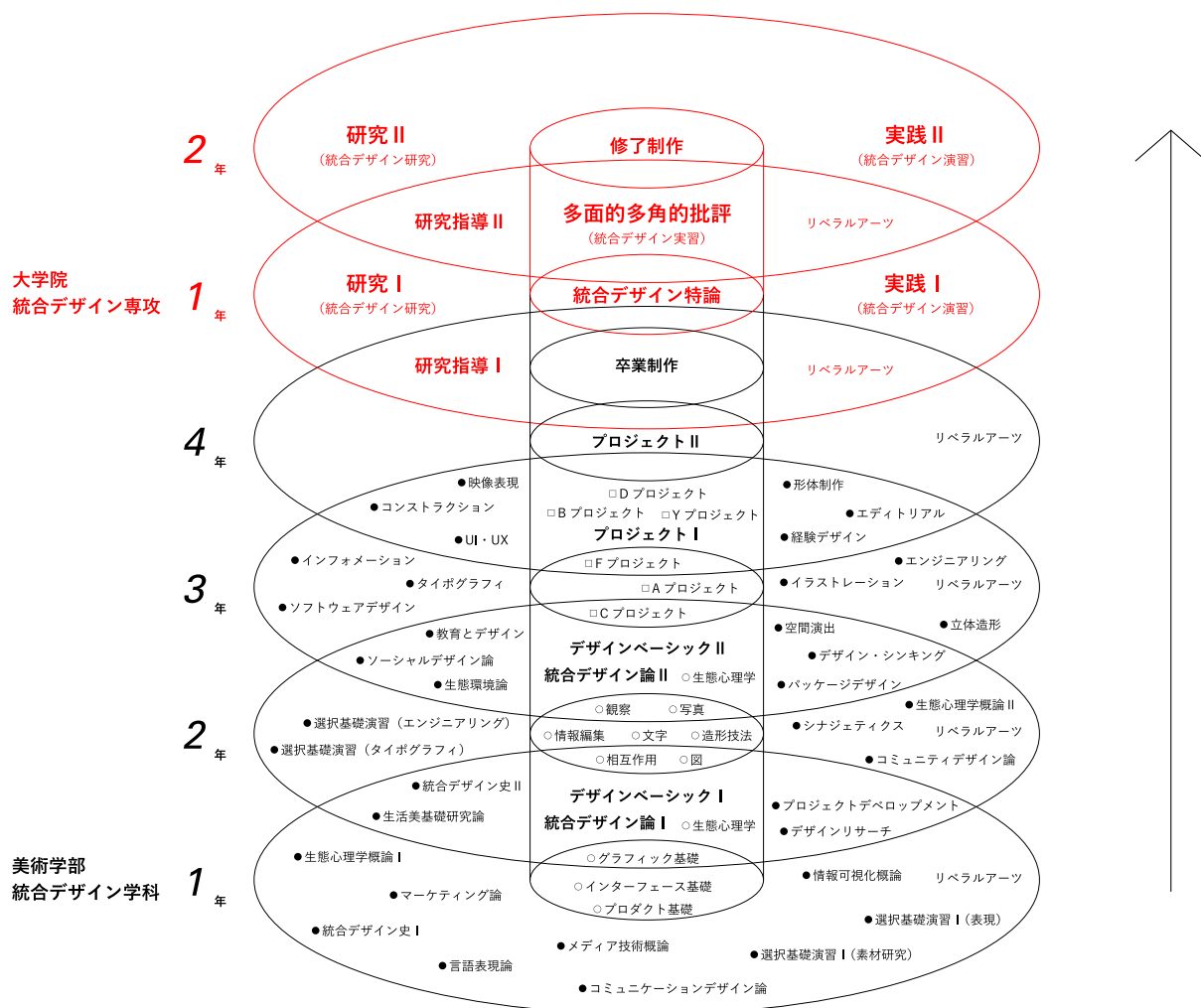
② 多角的・多層的批評（統合デザイン実習／2 単位）

デザインの分野に閉じず、制度・環境・テクノロジーなどの対象を多角的・多層的に批評する力を習得する。様々な分野の専門家を招いた対話型実習により、ものごとの本質を的確に把握する姿勢・論理的思考力・創造的思考力を習得する。

③ 研究（統合デザイン研究Ⅰ・Ⅱ／9 単位 × 2）

学生個々が独自の視点でデザインの視点から新たな価値を社会に提案する。変化する社会状況の中において自ら課題を発見し、答えのない問題に対して取り組んでいくための能力と姿勢を獲得し、デザイナーや研究者としての基礎を固めることを目標とする。

6年間のシームレスで一貫した高度デザイン人材の育成



[統合デザイン教育カリキュラム概念図]

■大学院概要

学 位 修士

修業年限 2 年

学 費 入学金 200,000 円、授業料 1,559,000 円(年間)

※本学出身者は入学金不要

入学定員 8 人(収容定員 16 人)

開設時期 2026 年(令和 8 年)4 月 1 日

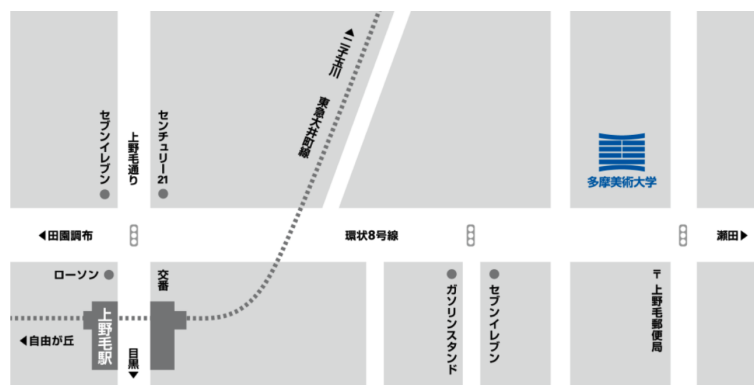
開設場所 多摩美術大学上野毛キャンパス

〒158-8558 東京都世田谷区上野毛 3-15-34

■多摩美術大学上野毛キャンパスアクセス

東急大井町線「上野毛駅」下車、環状 8 号線沿い(瀬田方面)に徒歩 3 分。

東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分。



■アドミッションポリシー

美術研究科博士前期課程統合デザイン専攻では、高度なデザインの専門性を伴った創造的思考力と表現技術を備えた人材を育成する為、国内外を問わず美術・芸術・工学・科学等の諸領域における学士相当以上の基礎力を有した人材、または実社会におけるデザイン実務経験者を求めます。

基本的な語学力とコミュニケーション能力を有し、デザインという営みが有する生活や社会、環境に与える美しい力を信じ、実行出来る人材の入学を期待します。入学試験では、ポートフォリオ、面接、小論文、研究計画書、実技試験、提出書類等を総合して選考します。

大学院2年間での自己の研究テーマ、ならびに高度産学官協同研究プロジェクトの両軸の取組みにより、専門的、統合的な高度な知識とアイデアを具現化する技術を磨き、既成の概念にとらわれない新鮮な発想力で、複雑化した様々な事象に対してデザインによる調和を求め、新しい未来を切り拓いていく人になることを期待しています。

■他の大学院研究科（参考）

・武蔵野美術大学大学院造形構想研究科修士課程

大学院新専攻設置に関するアンケート

- 多摩美術大学では、2026年（令和8年）4月に大学院統合デザイン専攻の開設計画を進めております。
- このアンケートでは、在学生の皆さまに大学卒業後の進路予定などについてお聞きし、今後の計画推進の基礎資料とさせていただきますようお願いしておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、アンケート回答の際は、一緒にお配りしたリーフレットもご覧ください。
- 調査は無記名で行い、個人が特定されることはありません。アンケート結果は統計資料としてのみ用い、調査担当者以外に個票を公表したり、他の目的のために利用することはありません。

kikaku@tamabi.ac.jp [アカウントを切り替える](#)

 共有なし

* 必須の質問です

①大学（学部）卒業後の進路をどのように考えていますか？（当てはまるすべて * を選択）

- ☐ 大学院に進学する
- ☐ 大学院以外の学校に進学する（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）
- ☐ 就職する
- ☐ フリーランスのデザイナー（または作家、アーティスト）として活動する
- ☐ その他: _____

②進学を希望する場合、進学希望時期はいつですか？（1つだけ選択） *

- ☐ 学部卒業後すぐ（1年以内）
- ☐ 学部卒業後2～3年以内
- ☐ 学部卒業後4～5年以内
- ☐ 進学時期は未定
- ☐ 進学は考えていない

次へ

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは Tama Art University 内部で作成されました。
Does this form look suspicious? [レポート](#)

Google フォーム



大学院新専攻設置に関するアンケート

kikaku@tamabi.ac.jp [アカウントを切り替える](#)



共有なし

* 必須の質問です

「進学を希望する」と回答された方

③ 進学の場合は国立・公立・私立のいずれを希望しますか？（当てはまるすべてを選択）（※国内・留学いずれの場合も含む）

- ☐ 私立
☐ 国立
☐ 公立

④ 進学先で学びたいと思う学問分野を選んでください。（当てはまるすべてを選択）

- ☐ 産業デザイン・工業デザイン
☐ 生活デザイン・プロダクトデザイン
☐ ビジュアルデザイン・グラフィックデザイン
☐ 総合デザイン・統合デザイン
☐ 造形・デザイン
☐ 上記以外のデザイン
☐ 美術関係（絵画、日本画、油画、彫刻、美術学、芸術学等）
☐ デザイン・美術以外の学問分野（経営、教育、金融、MBA等）
☐ その他: _____

⑤ 多摩美に大学院統合デザイン専攻が開設された場合、受験しますか？（1つだけ選択）

- ☐ 第一志望として受験する
☐ 第二志望として受験する
☐ 第三希望以降として受験する
☐ 受験しない【→⑦へお進みください】

⑥ 受験し、合格した場合、入学しますか？（1つだけ選択）

- ☐ 入学する
☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合は入学する
☐ 入学しない

⑦ 大学院統合デザイン専攻に関する次の項目について、それぞれの程度魅力的* ですか？（各項目について、気持ちにもっとも近いもの1つずつ選択）

	とても魅力的	まあ魅力的	どちらでもない	あまり魅力的ではない	まったく魅力的ではない
研究に加え、実装力やビジョンを具体化する力が身につき、実社会で即戦力となるデザイン人材となることができる	☐	☐	☐	☐	☐
世界を多面的・多層的に捉え、従来の価値観に囚われない新たな価値を創造できる人材となることができる	☐	☐	☐	☐	☐
グローバルな視点を持ち、デザインを基盤とした調和ある社会構築に挑み、美しい生活・社会を牽引する人材となることができる	☐	☐	☐	☐	☐
幅広い分野に横断する「デザインの核心」「気づき	☐	☐	☐	☐	☐

の力」を備えた人材となることができる					
発想力（アイデア）と物事を達成する力（行動）、その両方を持ち合わせた人材となることができる	☐	☐	☐	☐	☐
「良いものを作って当たり前」と思われるような、周囲からの期待値の高い人材となることができる	☐	☐	☐	☐	☐
外部の企業や組織とのインターンシップ形式授業により、よりプロフェッショナルで実践的なデザイン経験を獲得できる	☐	☐	☐	☐	☐
環境やテクノロジーなど様々な分野の専門家による対話型実習を通じ、多角的批評力・論理的思考力・創造的思考力を獲得できる	☐	☐	☐	☐	☐
社会課題の発見と、その解決に向けて必要な能力・姿勢を獲得することで、デザイナー・研究者としての基礎を固められる	☐	☐	☐	☐	☐

⑧進学を考えるにあたり、学費はどの程度影響しますか？（1つだけ選択）

- ☐ とても影響する
- ☐ まあ影響する
- ☐ どちらでもない
- ☐ あまり影響しない
- ☐ まったく影響しない

⑨進学を考えるにあたり、あなたの気持ちに近いものはどれですか？（当てはまるすべてを選択）

- ☐ 自分で負担できそう学費ならば、進学を考えてもよい
- ☐ 保護者または家族が学費を負担してくれるならば、進学を考えてもよい
- ☐ 自分の望む学びや研究を深められるならば、学費とは関係なく進学を考えてもよい
- ☐ 自分の今後のキャリアアップ（転職・昇給など）に役立つならば、学費とは関係なく進学を考えてもよい
- ☐ 働きながら進学できるならば、進学を考えてもよい
- ☐ 奨学金をもらえるならば、進学を考えてもよい
- ☐ 当てはまるものはない
- ☐ その他: _____

⑩大学院統合デザイン専攻の開設にあたり、何かご意見・ご要望等ありましたらお聞かせください。

回答を入力

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは Tama Art University 内部で作成されました。
Does this form look suspicious? [レポート](#)

Google フォーム



大学院新専攻設置に関するアンケート

kikaku@tamabi.ac.jp [アカウントを切り替える](#)



共有なし

「進学は考えていない」と回答された方

③進学を考えていない理由はなぜですか？（当てはまるすべてを選択）

- ☐ 進学の必要性がわからないから
- ☐ 進学したい学校がないから
- ☐ 大学（今の大学生活）で学びたいことを十分学べているから
- ☐ 進学して学びたいと思うことがないから
- ☐ 社会人として働きたいから
- ☐ 進学にはお金（学費）がかかるから
- ☐ 保護者が反対している（または反対されると思う）から
- ☐ 当てはまるものはない
- ☐ その他: _____

④大学院統合デザイン専攻の開設にあたり、何かご意見・ご要望等ありましたらお聞かせください。

回答を入力

[戻る](#)

[送信](#)

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは Tama Art University 内部で作成されました。
Does this form look suspicious? [レポート](#)

Google フォーム



ご自身に関するアンケート

下記アンケートにご協力お願いいたします。

アンケート回答に設問とは関係のない情報が入力されていないかご確認ください。

PCやスマートフォンなどの環境によっては
自動でメールアドレスなどが入力されることがあります。
回答内容は調査依頼元に提供されるため、ご注意ください。

回答内容の取扱いは、[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。

主催：株式会社マクロミル

 「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力をお願いします。

 アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

Q1100%就職してから、学び直し（リスキリング、スキルアップなど）の必要性を感じたことはありますか？ある方はいつ頃ですか？※複数ある方は、一番はじめに感じた時期についてお答えください。

🗳️ 単一回答

★ 必須回答

↑ とじる

①

学び直しの必要性を感じたことはない

②

学び直しの必要性を、社会人1～3年目頃に感じた

③

学び直しの必要性を、社会人4～6年目頃に感じた

④

学び直しの必要性を、社会人7～10年目頃に感じた

.....✂️ ここで改ページ

Q2学び直し（リスキリング、スキルアップなど）の手段（方法）について、あなたの希望に近いものをお選びください。（当てはまるものすべてを選択）※学び直しが必要ない方も学び直しすることを想定してお答えください。

✔️ 複数回答

★ 必須回答

↑ とじる

1

日本国内の大学・専門学校に通って学ぶ

2

海外の大学・専門学校に留学する

3

通信講座またはオンライン学習プログラムなどを受講して学ぶ

4

民間の会社などが実施するセミナーや研修会に参加して学ぶ

5

勤務先の会社が企画する社員向け研修に参加して学ぶ

6

勤務先の会社の上司や先輩などから指導してもらい学ぶ

7

自分で書籍やテキストなどを購入して学ぶ

8

現在の業務をこなすうちに自然と身につくのを待つ

9

その他

10

特に何もしない

.....✂️ ここで改ページ

Q3学び直し（リスキリング、スキルアップなど）の手段（方法）を選ぶにあたり、あなたが重視することをお選びください。（当てはまるすべてを選択）※学び直しが必要ない方も学び直しすることを想定してお答えください。

✔️ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

1

学費・費用

2

学ぶ学校のネームバリュー・知名度

3

学ぶ学校の通いやすさ

4

学習環境の利便性（オンラインコース・通信教育など）

5	教員陣
6	卒業生・OB/OG
7	仕事を続けることができる・仕事を辞めなくてもよい
8	学ぶ学校の体験談・口コミ
9	教育訓練給付金制度が利用できる
10	教育プログラムの多様性がある（様々なことを学べる）
11	教育プログラムの専門性が高い（学びたいことを深く学べる）
12	教育プログラムが実践的である（実社会で即生かせることを学べる）
13	学習期間
14	学位が取れる
15	その他 （必須入力）
16	わからない

.....< ここで改ページ

Q4

今後のキャリアについて、どのように考えていますか？（当てはまるすべてを選択）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

1	現在の勤務先で継続して勤務する
2	転職する
3	独立する（起業またはフリーランスとして活動する）
4	大学院（通学型）に進学する
5	大学院以外の学校（通学型）に進学する（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）
6	通信またはオンライン制の大学院または大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）に進学する
7	その他 （必須入力）
8	わからない
9	今の仕事を辞める・働かない

.....< ここで改ページ

Q5

進学を希望する場合、進学希望時期はいつですか？（1つだけ選択）

◎ 単一回答 ★ 必須回答

0/3

1	大学院	▼
2	大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）	▼
3	通信制の大学院または大学院以外の学校	▲
1	1年以内	
2	2～3年以内	
3	4～5年以内	
4	6年以降	
5	進学時期は未定	

.....< ここで改ページ

Q6

進学を考えていない理由はなぜですか？（当てはまるすべてを選択）

✓ 複数回答 ★ 必須回答

0/3

1	大学院	▼
2	大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）	▼
3	通信制の大学院または大学院以外の学校	▲
1	進学の必要性がわからないから	
2	進学のしたい学校がないから	

2 進学したい学校がないから

3 大学（または直近で通った学校）で学びたいことを十分学べたから

4 進学して学びたいと思うことがないから

5 社会人として働いていたいから

6 進学にはお金（学費）がかかるから

7 家族（または保護者）が反対している（または反対されると思う）から

8 わからない

9 当てはまるものはない

✖ 閉じる

.....✂️ ここで改ページ

Q7

進学を考えるにあたり、学費はどの程度影響しますか？（1つだけ選択）
※進学を希望していない方も、進学することを想定してお答えください。

🗑 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

0/3

1 大学院 ▼

2 大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など） ▼

3 通信制の大学院または大学院以外の学校 ▲

① とても影響する

② やや影響する

③ どちらでもない

④ あまり影響しない

⑤ まったく影響しない

.....✂️ ここで改ページ

Q8

進学を考えるにあたり、あなたの気持ちに近いものはどれですか？（当てはまるすべてを選択）
※進学を希望していない方も、進学することを想定してお答えください。

✓ 複数回答 ★ 必須回答

とじる

0/3

1 大学院 ▼

2 大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など） ▼

3 通信制の大学院または大学院以外の学校 ▲

① 自分で負担できそうな学費ならば、進学を考えてもよい

② 家族（または保護者）が学費を負担してくれるならば、進学を考えてもよい

③ 自分の望む学びや研究を深められるならば、学費とは関係なく進学を考えてもよい

④ 自分の今後のキャリアアップ（転職・昇給など）に役立つならば、学費とは関係なく進学を考えてもよい

⑤ 働きながら進学できるならば、進学を考えてもよい

⑥ 奨学金をもらえるならば、進学を考えてもよい

⑦ 当てはまるものはない

✖ 閉じる

.....✂️ ここで改ページ

Q9

進学を希望する場合、国立・公立・私立のいずれを希望しますか？（※国内・海外いずれの場合も含む）（当てはまるすべてを選択）
※進学を希望していない方も、進学することを想定してお答えください。

✓ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

0/3

1 大学院 ▼

2 大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など） ▼

3 通信制の大学院または大学院以外の学校 ▲

① 私立

2 国立

3 公立

閉じる

ここで改ページ

Q10

進学先で学びたいと思う学問分野を選んでください。（当てはまるすべてを選択）
※進学を希望していない方も、進学をすることを想定してお答えください。

✓ 複数回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/3

1 大学院

2 大学院以外の学校（専門学校、専門職大学、短期大学、大学など）

3 通信制の大学院または大学院以外の学校

1 産業デザイン・工業デザイン

2 生活デザイン・プロダクトデザイン

3 ビジュアルデザイン・グラフィックデザイン

4 総合デザイン・統合デザイン

5 造形・デザイン

6 上記以外のデザイン

7 美術関係（絵画、日本画、油画、彫刻、美術学、芸術学 等）

8 デザイン・美術以外の学問分野（経営、教育、金融、MBA 等）

9 その他

(必須入力)

10 未定/分からない

閉じる

ここで改ページ

Q11

あなたは「多摩美術大学」を知っていますか？（1つだけ選択）

◎ 単一回答

★ 必須回答

① 大学名を知っていて、学部・学科名や教員、卒業生（OB/OG）にどういう人がいるかなどについて知っている

② 大学名を知っていて、どのようなことを学べる大学なのかについてもなんとなく知っている

③ 大学名を知っているが、どのような大学かは知らない（名前を聞いたことがある程度）

④ 知らない（今回の調査で大学名を初めて目にした）

ここで改ページ

Q12

【画像をよく読んでお答えください】

多摩美術大学の大学院統合デザイン専攻に関する次の項目について、それぞれの程度魅力的ですか？（各項目について、気持ちにもっとも近いもの1つずつ選択）

▼ ボタンをクリックして、表示される画像をご覧ください。 ▼

(転載、複製は固く禁じます)

※クリック必須

画像を表示

◎ 単一回答

★ 必須回答

▲ とじる

0/9

1 研究に加え、実装力やビジョンを具体化する力が身につく、実社会で即戦力となるデザイン人材となることができる

2 世界を多面的・多層的に捉え、従来の価値観に囚われない新たな価値を創造できる人材となることができる

3 グローバルな視点を持ち、デザインを基盤とした調和ある社会構築に挑み、美しい生活・社会を牽引する人材となることができる

4 幅広い分野に横断する「デザインの核心」「気づきの力」を備えた人材となることができる

5 発想力（アイデア）と物事を達成する力（行動）、その両方を持ち合わせた人材となることができる

「良いものを作って当たり前」と思われるような、周囲からの期待値の高い人材となることができる	▼
⁷ 外部の企業や組織とのインターンシップ形式授業により、よりプロフェッショナルで実践的なデザイン経験を獲得できる	▼
⁸ 環境やテクノロジーなど様々な分野の専門家による対話型実習を通じ、多角的批評力・論理的思考力・創造的思考力を獲得できる	▼
⁹ 社会課題の発見と、その解決に向けて必要な能力・姿勢を獲得することで、デザイナー・研究者としての基礎を固められる	▲

① とても魅力的

② やや魅力的

③ どちらでもない・普通

④ あまり魅力的ではない

⑤ まったく魅力的ではない

.....✂️.....

Q13

【画像をよく読んでお答えください】

多摩美術大学の大学院統合デザイン専攻が開設された場合、受験しますか？（1つだけ選択）

▼ ボタンをクリックして、表示される画像をご覧ください。 ▼
(転載、複製は固く禁じます)

画像を表示

⊙ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三希望以降として受験する
- ④ 受験しない

.....✂️.....

Q14

前問で多摩美術大学の大学院統合デザイン専攻を受験する、または受験しないと答えた理由はなぜですか？

★ 必須回答

▲ とじる

0/500文字

.....✂️.....

Q15

多摩美術大学の大学院統合デザイン専攻を受験し、合格した場合、入学しますか？（1つだけ選択）

⊙ 単一回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- ① 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合は入学する
- ③ 入学しない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送 信